

2014年度 政策提言ツアー(大阪府) 実施報告書

実施日時：2015年2月9日 午後3時から5時

訪問先：大阪府庁

参加者：大阪大学赤井伸郎ゼミ¹10名(2・3年)+WEST委員3名+引率教員1名

内容

1. 政策提言ツアー企画の経緯と付加価値 1
2. 当日の案内チラシ 2
3. 参加者コメント 3



1. 政策提言ツアー企画の経緯と付加価値

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井ゼミ所属の学生が2014年度に執筆した論文(題目「(2)後発医薬品普及促進への一向～医療費適正化を目指して～」)が、WEST(WEST論文研究発表会)において、最優秀賞を受賞した。これを機会に、実際に現場で政策の設計・執行に携わる担当者の前で、提案し、現実との関連性・考え方を学ぶことを目的とするツアーを、大阪府の協力の下、企画することになった。本ツアーに御協力いただいた大阪府の皆様には、学生に貴重な体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝したい。

昨年度(2013)および本年度(2014)は、政策を設計する霞ヶ関の省庁への政策提言ツアーも行った。霞ヶ関にある中央省庁は、国の視点から、政策を立案するものの、その執行は自治体にゆだねられることが多い。今回のツアーの訪問先は、まさにその自治体であり、政策の議論にとどまらず、執行機関としての視点からの政策論議が出来たことが、本年度の試みによる新たな付加価値であると言えよう。

¹ 連絡先：赤井伸郎(大阪大学国際公共政策研究科教授) akai@osipp.osaka-u.ac.jp

2. 当日の案内チラシ

平成 26 年度 第 6 回おおさか未来塾 政策提言・意見交換のお願い

本府政策企画部企画室では、府政を取り巻く社会経済情勢を把握し、企画立案に活かすため、専門家等の意見を聞く場として「おおさか未来塾」を開催し、所属職員の資質向上を図っています。

今回は、貴団体より、下記の通り、3つのテーマについて、本府に対して政策提言を行っていただき、今後の企画立案につながる有意義な議論を交わすことができればと考えており、ご臨席賜りますよう、よろしくお願いいたします。

記

- 1 日時 平成 27 年 2 月 9 日（月） 15 時 00 分～17 時 30 分
- 2 場所 大阪府庁 本館 2 階 第 1 委員会室
（※アクセスについては別紙をご参照ください。）
- 3 提言内容 ○有効な結婚支援政策
～少子化の解消をめざして～

○後発医薬品普及促進への一考
～医療費適正化を目指して～

○空き家による外部不経済の予防に向けて
～中古住宅市場の活性化～

【各項目 発表 20 分／質疑応答 10 分／討議 10 分(目安)】

※大阪府側の当日の出席者につきましては、府議会の開会に近いこともあり、当日まで確定できない可能性があります。ご了承ください。

3. 参加者コメント

番号	(1) 大阪府への政策提言ツアーを行う意義
1	国と地方では視点も役割も異なり、その点について議論できることはとても有意義であると思います。また、都道府県主体の政策提言をすることも多いため、そういった提言に対しては、府の方の意見をお聞きしたいと思います。
2	大阪大学ということで、地元への還元という点では意義があるのではと思います。また、論文において国への提言が主とはいえ、その実施主体である都道府県への提言も重要ではないかと思います。
3	執筆した論文では都道府県単位で分析をしているため、府の政策担当の方にご意見を頂くことで、分析だけでは見えない現実の障壁を知り、より現実的な政策を考えることができると思います。
4	自治体が主体となっている分野や政策の実態について詳しく聞くことが出来る(特に今回婚活班は自治体レベルの政策だった)。それに関連して、地域ごとの事情の違いを学ぶことができる。
5	論文で都道府県別のテーマを使うことが多く、自分たちの政策提言に不可欠な存在である都道府県に直接行って、お話を聞ける機会と言うのはとても貴重であると思う。
6	実際の現場に立って動かす側からの視点を学ぶことで提言内容の実現への課題や新たな問題点などが見えてくる。よりよい提言を考えるうえで有益なものであると思う。
7	大阪大学が大阪府内にあるということもあり、今回のような大阪府に対して提言を行うことには意義があるように感じる。
8	受賞を目指して大会に出場することに留まることなく、現場の方に直接発表し、コメントをもらえるというのは学生にとってより学びのある場となる。特に、現場の方のご意見や考え、現状を聞くことで、「実現可能性」について改めて考える絶好の機会。
9	大阪大学に通っている学生として、単に国家の省庁のみならず、自分の暮らしの身近にある行政にも訪ね、自分らが一年間準備したものを評価してもらおう場という意味だと思います。
10	赤井ゼミの執筆論文では、都道府県別のパネルテーマを用いて実証分析し、変数に都道府県別の政策変数を入れることが多いため、都道府県の実情を知ることは非常に勉強になります。日本全体の社会問題への解決を求めるISFJへの出場にあたり、中央官庁向けの提言をまとめる場合が多いものの、そうした政策に対して、地方行政の目線から講評を頂くことで、より具体的で実現性の高い政策の立案に役立つと考えます。
	WESTスタッフ
11	WESTにこの提言ツアーを導入することができれば、大会の魅力になり、そして参加者のモチベーション維持や大会にかける気持ちは強くなると思います。また実際に政策を行う行政に政策提言をすることは、参加者・そのゼミの先生・行政の方々三者に良い機会になると考えます。
12	WESTは学術的に論文を書き発表するだけの大会であるため、政策を実行する側である行政の方に実際聞いて頂けるチャンスが優秀な班に与えられるというのは、論文を書くモチベーションとして非常に有益であると思います。
13	入賞に向けたモチベーションの向上につながると考えます。加えて、大阪府という学校を飛び出した環境での発表は、貴重な経験となるでしょう。

番号	(2)大阪府訪問時の感想
1	建物にもよるのかもしれませんが、思った以上に古く、学校のような印象を受けました。たくさんの方が参加してくださっていましたが、実際に発言される方は限られていましたし、霞が関のツアーのように担当部署の方数名とのみ議論という形の方が、集中した良い議論ができるのではと感じました。
2	私たちの班は、結婚というテーマなこともあってかテーマや確かな情報に基づく議論ではなくどちらかというと感情論に近い議論になってしまったのが残念でした。また、担当課の職員がいたのにもかかわらず、あまりその方とお話しできなかったのが残念でした。
3	想像していたよりも多くの方に発表を聞いていただけました。質疑応答の時間が短かったので、せっかく実務の方のお話を聞ける機会なので討議メインの時間配分でもいいなと感じました。
4	初めの婚活班の発表時は多くの方が聞いてくださったが、次第に人数が減っていったのが少し悲しかった。忙しいとは思いますが、なるべく多くの方の意見を聞かせていただけると嬉しい。懇親会で府庁の方とお話できたのはとても貴重な機会になった。
5	大阪府の職員の方々がお忙しい中、非常に親身に話を聞いてくださり、さらには、未来塾が終わった後の懇親会でも興味深い話を多くしてくださり、とても感謝しています。
6	お忙しい中貴重なお時間を割いていただき、我々にとって非常にいい経験となった。今後も引き続き、こうした形で学びの場があるとありがたい。
7	今回の訪問では、府の未来塾の番外編のような形で参加させていただいた。専門の方にも参加していただいたが、やはり国の政策を扱うことも多いので、提言内容と対象にずれがあるのが問題であるように感じる。
8	担当となっている論文の発表でないときにも、学生が発信する意見として興味を向け、質問や意見をくださり、より多くの意見を含んだ有意義な議論ができた。
9	訪問時の部屋のセッティングは議論しやすくなっていたと考えられますが、肉声で声を大きくしなければいけない環境であったため、マイクなどがあれば発表する際の伝達力が上がるのではないかと考えました。
10	副知事をはじめ多くの方に聞いて頂きましたが、その分、担当者や突っ込んだ議論が出来なかったのが残念でした。また質疑応答では、論文大会時と同様に、学生側が論文内容の正当性を強調する議論に終始してしまった場合が多く、論文の背景にある問題点や論文執筆上でつまずいた点を素直に意見交換できれば良かったと思います。
	WESTスタッフ
11	途中参加のため提言会がどのように進行していったのかわかりませんが、せっかくの機会なのでこれをメディアに取材にきてもらうことができたらいいなと思いました。また今後は三部屋などを使い同時進行することで、発表できる論文数を増やすことができるのではないかと考えました。
12	各論文ごとに専門担当に近い部署の方が発表を聞いて下さるのがとても良いなと思いましたし、非常に熱心に聞いて下さっているのが印象的でした。
13	遅れての参加であったため、特になし。

番号	(3) 発表および質疑における感想について
1	都道府県主体の政策について、ネットの資料では調べきれなかった点についてもお聞きすることができ、勉強になりました。
2	西成に代表されるように非正規雇用の問題が深刻な大阪で、非正規雇用と未婚の関連性を聞くことができてよかったです。
3	質疑は、おもしろい議論ができたけれど、論文に関する質疑からはそれがちだった点が残念でした。
4	全体として、政策提言の内容そのものに対する意見をもっと聞きたかったと思う。また、婚活班以外の班に対しては、学生からの質問に答えるのが主だったが、府庁の方々の感想をもっと聞きたかった。
5	前回の発表から期間が開いてしまい、少し発表がスムーズにいかなかった部分があり、残念だった。各発表で担当部署の方々が応対してくださったので、深い議論が出来たと思う。
6	府としても対策などは考えてはいても、最終的にやや保守的、否定的な方針に落ち着いてしまっているように感じた。府の方々の意見がやや偏っているようにも感じられた。
7	マイクがないと聞き取りにくい部分もあったのではないかと感じた。自分たちの発表は国全体のことを話すのがメインなのに府の方に聞いていただくという部分の食い違いについてもう少し溝をなくせたらよりよくなるのかなと感じた
8	質疑応答の中では、時間が足りないと思うほど、興味深い話が多くあり、今後も論文テーマについて関心を向けていこうという意識に繋がった。意見交換の場でなければ聞けないような「声」をもっと聞きたいと思った。
9	我々が書いた論文に基づき、発表しそれを現状政策に密接に関わっている方々と質疑及びフィードバックしてもらい良かったと思います。しかし、時間的にもっと余裕があったらより深い議論ができたのではないのでしょうか。
10	後発表の議論に関しては、厚労省とは異なる考え方を聞き、新鮮でした。また厚労省とは異なり、一人が担当する領域が大きいためか、担当者が現行の政府政策や医療制度を十分に理解されていない部分もあるようでした。政府の方針を地方行政まで浸透させ、オールジャパンで課題解決を進める難しさも感じました。
	WESTスタッフ
11	途中参加のため発表を丸々一つ聞いていないので何とも言えないですが、発表者にとって行政の方々に自分たちの考えた政策提言を伝え、またそれに感想や意見を頂けるのはとてもいい機会だと思います。
12	私自身も昨年WESTに提出するため論文を書きましたが、やはり大阪大学赤井研究室の論文は研究や分析がしっかりとしており、発表も練習がしっかりとなされていてレベルが高いなと実感しました。それでもやはり、行政の側から聞くと「本当にその政策が大阪府に当てはまるのか」「行政としてはそこは関わる事が出来ない」等、実際の行政側からのアプローチの仕方や考え方は乖離する部分が多いと学びました。論文を書いていると、政策を実行する立場にたつて考え抜くことを忘れてしまいがちになる傾向があると思いました。その点からも、今回、詳しいフィードバックを聞くことが出来、良かったです。
13	発表の途中で入室させていただきましたが、発表を丁寧に行う学生の姿と、傾聴する大阪府の方々が熱心に発表を聞いていた姿勢が印象的でした。

番号	(4) 今後のツアーのあり方について、改善点など
1	赤井ゼミだけでなくウエストの他の受賞班も参加する形(最優秀賞と政策提言賞、プレゼン賞の副賞とする等)にすれば、府庁の方も様々な形の提言を聞くことができますし、ウエスト参加者のモチベーションにもなると思います。ゼミ間の交流にもなります。
2	勉強会でもっと担当者と論点に基づく議論ができればうれしいです。
3	大阪府の担当の方と近い距離でお話ができるととても良い機会だったと思います。(2)でも触れたように、論文のプレゼンの時間を圧縮して討議メインの時間構成にしてほしいなと思いました。
4	学生が府庁での取り組みについて深く知るだけでなく、自分達の提言を評価してもらう場としてツアーをすればもっと良いのではないかと思った。
5	プロモーション活動を行い、より多くの人々に参加してもらえれば、より活発で多様な議論が出来るのではないかと思う。
6	府の方にあらかじめ論文の短縮版を読んでもらうこと、発表の時間も要点のみにすることでより多く議論の時間を確保できるようになると思う。
7	時間の制約があるのは承知しているが、やはり府の職員の方からの反応であったり、後ろで聞いていた方の反応を拾える時間がほしかった。
8	提言ツアーのような機会を得られるということは、論文大会に参加する参加者の学生にもモチベーションにもつながる。論文研究発表会を通して、色々な大学の学生がこういった機会を得られればと思う。
9	行政の方々であるため、時間がないことは分かっていますが、より時間的余裕があれば深度のある議論ができたと思います。
10	WESTの公式行事として、優秀5本の論文班に提言の機会を与えるなど、継続して実施して欲しいと思いました。大阪府の方の負担にならず、また学生側の収穫が大きい発表や議論の方法を試行錯誤しながら、よりよい提言発表会を企画して欲しいと思います。
	WESTスタッフ
11	この提言ツアーがWESTで導入できたら、大阪府に提言することになります。しかし優秀班の中には他の地方の大学の方もいるのでそうした場合どうしたらいいのか、またその発表をした場合大阪府の方々には返答に困るのではないか、ということが課題、不安な点だと考えます。
12	是非、このツアーを今回だけではなく、2015年度からのWESTでの恒例行事にしていただければ幸いです。また、発表者・大阪府共にマイクがあると部屋全員が聞き取りやすかったかなと思います。今回、WESTからのスタッフという形で政策提言ツアーに参加することが出来、本当に感謝しております。運営委員は卒業となりますが、個人的に、WESTの更なる発展の為に、今年度も尽力していく所存です。懇親会も参加したいと思っておりますので、また皆様とお会い出来る日を楽しみにしております！！WESTは大阪府の皆様のおかげで成り立っています。感謝してもきれません。これからも何卒よろしく願い致します。
13	ツアーの参加権の獲得基準や発表の時間、発表班の数。たくさんの学生にチャンスを与えたいが、多すぎるとは傾聴側の負担と、自分の発表が終わった後の過ごし方が気になることです。